



平成 22 年 10 月 25 日

各 位

大阪市北区堂島浜二丁目 2 番 8 号 東洋紡ビル  
 ヴィンキュラム ジャパン株式会社  
 代表取締役社長 瀧澤 隆  
 (JASDAQ・コード番号: 3784)  
 問い合わせ先 取締役管理部長 吉田 裕  
 TEL 06-6348-8951

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月12日付当社「平成22年3月期決算短信(連結)」にて発表いたしました平成23年3月期(平成22年4月1日～平成23年3月31日)の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

#### 1. 平成 23 年 3 月期 連結業績予想の修正等

(1) 第 2 四半期連結累計期間(平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想(A)	4,874	95	87	58	1,841円27銭
今回修正(B)	4,479	67	76	9	301円34銭
増減額(B-A)	△395	△28	△11	△49	—
増減率	△8.1%	△28.6%	△12.0%	△83.6%	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	4,757	△509	△510	△402	△12,785円65銭

#### (2) 修正理由

当社の主要顧客である流通サービス業分野においては、企業業績の改善にともない新規IT投資が徐々に増え全体的には回復感が表れてきております。しかしながら、顧客の投資に対する慎重な姿勢、低コスト志向は続いており、受注までの期間の長期化や同業他社との価格競争の激化など依然として厳しい環境が続いております。

これらの影響により売上高は全体的に伸び悩む結果となり、前回予想値を3億95百万円下回り44億79百万円となる見通しです。

利益面につきましては、前期における中国への業務移管など収益構造改革に加え、第2四半期連結会計期間からのプロダクト案件の増加による要員稼働率の大幅な向上や、グループ役割分担の明確化によるグループ経営の効率化により黒字化へ確実に転換できたものの、売上高の減少による利益への影響額すべてをカバーすることはできず、前回予想値と比較して、営業利益は28百万円下回り67百万円、経常利益は11百万円下回り76百万円となる見通しです。

また、四半期純利益は、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額6百万円や事務所移転費用17百万円、過年度法人税等の修正12百万円の影響などにより前回予想値を49百万円下回り9百万円となる見通しです。

これらの理由に基づき、第2四半期連結累計期間の業績予想を修正いたします。

(3) 通期(平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想(A)	10,000	291	280	197	6,253円97銭
今回修正(B)	9,090	291	280	138	4,380円95銭
増減額(B-A)	△910	0	0	△59	—
増減率	△9.1%	0	0	△29.9%	—
(ご参考) 前期実績 (平成22年3月期)	9,386	△466	△439	△363	△11,532円78銭

(4) 修正理由

通期見通しにおいては、景気は回復傾向が続いているものの、改善の動きが弱まっており、また、急激な円高の影響、株価の変動や海外景気の下振れ懸念等のリスクが内在しており、当社グループを取巻く環境は予断を許さない状況が続くと想定されます。

このような環境の中、当社グループは平成22年5月に策定した新中期経営計画の5つの戦略に基づき事業展開を行っております。

特に昨今の小売業の中国進出を契機として、中国への拡大を目指している流通サービス業への積極的なアプローチの実施、特定顧客への深耕、新プロダクトである流通クラウドの市場投入など事業拡大に向けた取り組みを行っております。

しかしながら、これら事業拡大の取り組みは次年度以降の業績に貢献する見通しであり、このような状況から当連結会計年度の売上高については大幅に改善することは難しい見通しです。

利益面について、第2四半期連結会計期間以降の利益率の改善傾向が、第3四半期連結会計期間以降も継続すると想定され、当連結会計年度の営業利益、経常利益は概ね想定どおりに推移する見通しです。

当期純利益は、第2四半期連結累計期間における影響などにより前回予想値を下回る見通しです。

これらの理由に基づき、通期の業績予想も修正いたします。

なお、平成23年3月期末の配当金につきましては、平成22年5月12日に発表いたしましたとおり、1株当たり2,000円を予定しております。

2. 平成23年3月期 個別業績予想の修正等

(1) 第2四半期累計期間（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回予想 (A)	4,455	66	67	38	1,206円35銭
今回修正 (B)	4,038	57	66	9	314円03銭
増減額 (B-A)	△417	△9	△1	△29	—
増減率	△9.3%	△12.5%	△0.5%	△74.0%	—

(2) 修正理由

連結業績予想の修正理由と同様の理由であります。

(3) 通期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
前回予想 (A)	9,000	197	200	118	3,746円03銭
今回修正 (B)	8,140	197	200	77	2,444円44銭
増減額 (B-A)	△860	0	0	△41	—
増減率	△9.6%	0	0	△34.7%	—
(ご参考) 前期実績 (平成22年3月期)	8,832	△357	△351	△297	△9,453円98銭

(4) 修正の理由

連結業績予想の修正理由と同様の理由であります。

※ 上記に記載した業績予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上